

第6章 ダイオキシン類測定結果

I 概要

ダイオキシン類は、物の燃焼などの過程で非意図的に生成する物質であり、長期間にわたって一定量以上を摂取した場合に、慢性毒性、発がん性などの健康影響のおそれが指摘されている。主な発生源としては廃棄物の焼却が挙げられ、その他にも、金属の精錬、たばこの煙、自動車排出ガスなど様々な発生源がある。平成10年度以降、市内のダイオキシン類による汚染の状況を把握するため、環境調査を実施しており、平成12年度以降は平成12年1月15日に施行されたダイオキシン類対策特別措置法の規定により定められた調査手法に基づき実施している。

II 背景

ダイオキシン類は、ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン（PCDD 75種類）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF 135種類）及びコプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCBs 十数種類）の総称をいう。PCDDとPCDFは多くの他の化学物質と異なり、何らかの用途に使用する目的で作られるものではなく、燃焼過程などにおいて副次的、非意図的に生成する物質である。一方、PCBは非意図的にも生成されるが、その優れた熱的安定性や電気絶縁性などのために化成品として積極的に製造され、使用されてきた。

我が国のダイオキシン類対策は、平成7年に耐容一日摂取量(TDI)の検討が始まり、その後、大阪府能勢町において土壌の高濃度汚染が見つかり、埼玉県所沢市周辺における産業廃棄物処理施設の密集の問題が取り上げられるようになると、その動きは目まぐるしいものとなっていった。

当時の環境庁が設置した「ダイオキシンリスク評価検討会」、「排出抑制対策検討会」からの報告を受けて、平成9年8月には大気汚染防止法施行令が改正され、ダイオキシン類が指定物質に追加された。一方、廃棄物の処理及び清掃に関する法律政省令が改正され、廃棄物処理施設の構造と維持管理の基準が強化された。平成10年4月には大気汚染防止法施行規則等の改正により、ばいじん規制が強化された。

また、WHOが科学的知見に基づいてTDIの見直しを行った結果等を踏まえ、平成11年にダイオキシン対策関係閣僚会議が5回開催され、「ダイオキシン対策推進基本指針」を決定し、平成11年7月に議員立法によってダイオキシン類対策特別措置法が成立し、平成12年1月15日に施行された。法第26条において都道府県知事による大気、水質（水底の底質を含む）及び土壌のダイオキシン類による汚染状況の常時監視の義務が定められており、この規定に基づき毎年環境調査を行っている。

Ⅲ 調査結果

1 調査対象

(1) 公共用水域

ダイオキシン類公共用水域(水質)の調査地点の選定については、「水質調査方法(昭和46年9月30日)」に準じて行うこととしている。その中で公共用水域の水質の常時監視については、市内全域の水質汚染状況を把握するため、河川水質7地点、海域水質5地点の調査を実施している。

また、公共用水域の底質の常時監視については、「ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル(平成13年5月31日)」に準じて行うこととしている。底質については、公共用水域の水質の常時監視の調査地点と同地点での実施が原則とされることから、海域水質と同地点の5地点で底質の調査を実施している。

(2) 地下水

ダイオキシン類地下水調査の調査地点については、「ダイオキシン類対策特別措置法に基づく水質の常時監視に係る法定受託事務の処理基準(平成13年5月31日)」において選定方法が示されている。地下水質の常時監視については、「水質汚濁防止法の一部を改正する法律の施行について」の別紙「地下水質調査方法」に準じて行うこととされており、具体的な地点選定方法は「水質モニタリング方式効率化指針」を参考とするとされている。

本市では、ローリング方式(メッシュ等に分割した調査区域の中から毎年調査区域を選定して順次調査を行う方式)により調査を実施している。

(参考)メッシュ調査の考え方

世界測地系による経緯度法の基準地域メッシュ(3次メッシュ、1辺約1km)を基準として、3次メッシュ4個で1メッシュとした1辺2kmのメッシュで川崎市を区分する(以下2kmメッシュと記載)。

川崎市全域では、地下水採取に適切な井戸が存在する2kmメッシュは46メッシュ存在している。

(3) 土壌

ダイオキシン類土壌調査の調査地点については、「ダイオキシン類対策特別措置法における土壌の常時監視に係る法定受託事務の処理基準について(平成12年6月16日)」において選定方法が示されている。

本市では、この選定方法に従い、地下水調査と同様にローリング方式により調査を実施している。

なお、土壌のメッシュ区分は地下水調査と同様のメッシュ区分を使用し、住居と土壌採取に適切な公園の存在する42の2kmメッシュについて調査を実施している。

2 調査内容

平成27年度に実施したダイオキシン類調査は次のとおりである。

(1) 公共用水域

ア 河川水質調査

(ア) 試料採取日

平成27年 9 月 30 日

(イ) 調査地点

市内7地点（図VI-1 ①～⑦）

(ウ) 測定項目（12項目）

a ダイオキシン類

b 一般項目（11項目）

気温、水温、流量、外観、臭気、透視度、pH、BOD、DO、SS及び水深

イ 海域水質調査

(ア) 試料採取日

平成27年11月17日

(イ) 調査地点

市内5地点（図VI-1 ア～オ）

(ウ) 測定項目（11項目）

a ダイオキシン類

b 一般項目（10項目）

気温、水温、外観、臭気、透視度、pH、COD、DO、SS及び水深

ウ 海域底質調査

(ア) 試料採取日

平成27年11月17日

(イ) 調査地点

市内5地点（図VI-1 ア～オ）

(ウ) 測定項目（5項目）

a ダイオキシン類

b 一般項目（4項目）

外観、泥温、含水率、強熱減量



図VI-1 公共用水域調査地点

(2) 地下水

ア 試料採取日

平成27年6月24日、29日

イ 調査地点

市内井戸5地点（図VI-2 ①～⑤）

ウ 測定項目（7項目）

(ア) ダイオキシン類

(イ) 一般項目（6項目）

pH、水温、電気伝導度、SS、外観及び臭気

(3) 土壌

ア 試料採取日

平成27年7月31日、平成28年1月15日

イ 調査地点

市内公園5地点（図VI-3 ①～⑤）

ウ 調査項目（6項目）

(ア) ダイオキシン類

(イ) 一般項目（5項目）

土性、土色、臭気、含水率、強熱減量

3 調査結果

平成27年度に実施したダイオキシン類調査結果は次のとおりである。

(1) 公共用水域

ア 河川水質調査

河川7地点における水質調査を実施した結果、全地点で水質環境基準（年間平均値が1 pg-TEQ/L以下）を達成していた。

イ 海域水質調査

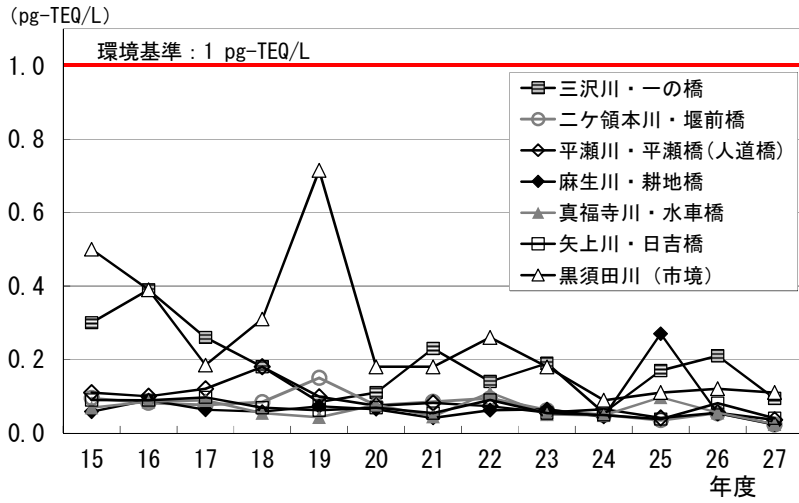
海域5地点における水質調査を実施した結果、全地点で水質環境基準（年間平均値が1 pg-TEQ/L以下）を達成していた。

ウ 海域底質調査

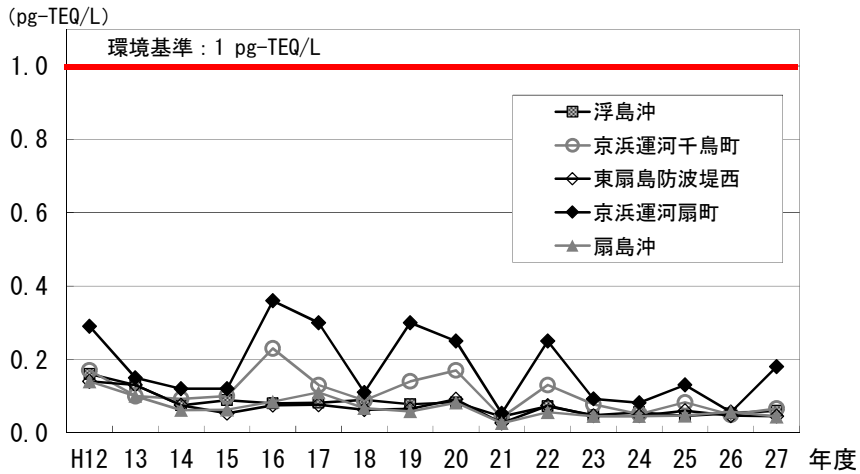
海域5地点における底質の調査を実施した結果、全地点で底質環境基準（150 pg-TEQ/g以下）を達成していた。

表VI-1 ダイオキシン類調査結果（公共用水域）

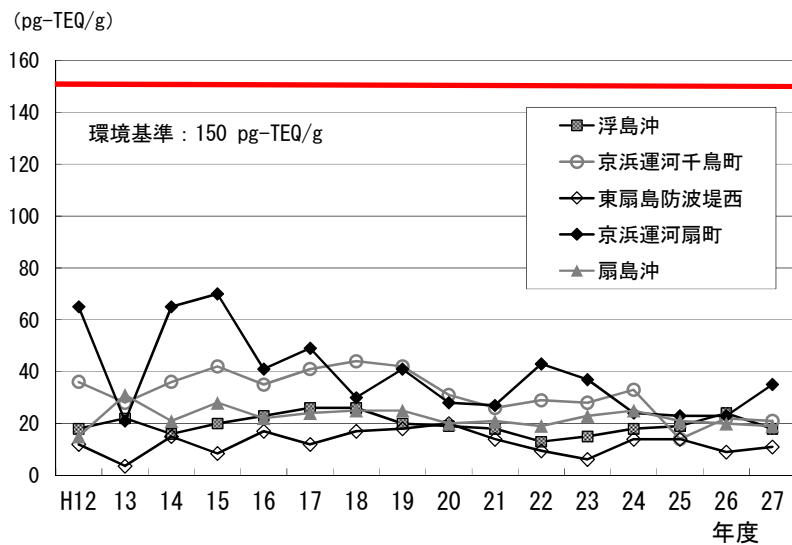
調査地点		水質調査結果 (pg-TEQ/L)	底質調査結果 (pg-TEQ/g)	試料採取日
河川	① 三沢川・一の橋	0.094	—	H27.9.30
	② 二ヶ領本川・堰前橋	0.023		
	③ 平瀬川・平瀬橋(人道橋)	0.036		
	④ 麻生川・耕地橋	0.023		
	⑤ 真福寺川・水車橋前	0.024		
	⑥ 矢上川・日吉橋	0.040		
	⑦ 黒須田川(市境)	0.11		
海域	ア 浮島沖	0.060	18	H27.11.17
	イ 京浜運河千鳥町	0.066	21	
	ウ 東扇島防波堤西	0.045	11	
	エ 京浜運河扇町	0.18	35	
	オ 扇島沖	0.044	19	



図VI-2 ダイオキシン類河川水質環境濃度 経年推移



図VI-3 ダイオキシン類海域水質環境濃度 経年推移



図VI-4 ダイオキシン類海域底質環境濃度 経年推移

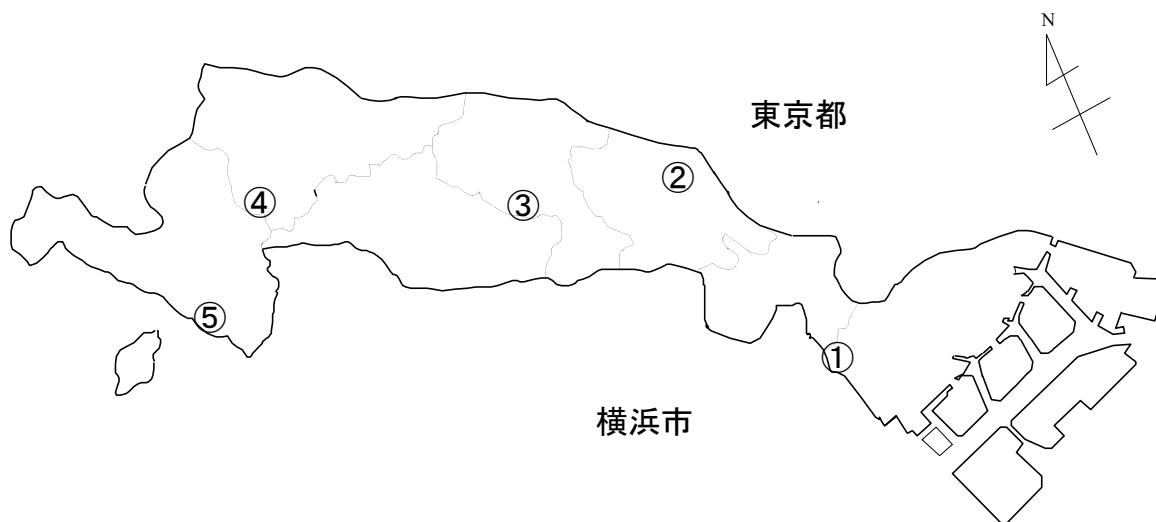
(2) 地下水

井戸5地点において水質調査を実施した結果、全地点で水質環境基準（年間平均値が1 pg-TEQ/L以下）を達成していた。

表VI-2 ダイオキシン類調査結果（地下水）

(pg-TEQ/L)

調査地点			調査結果	試料採取日
①	川崎区	堤根	0.022	H27.6.24
②	中原区	下沼部	0.021	
③	高津区	新作	0.021	
④	多摩区	南生田	0.021	H27.6.29
⑤	麻生区	上麻生	0.022	



図VI-5 地下水調査地点

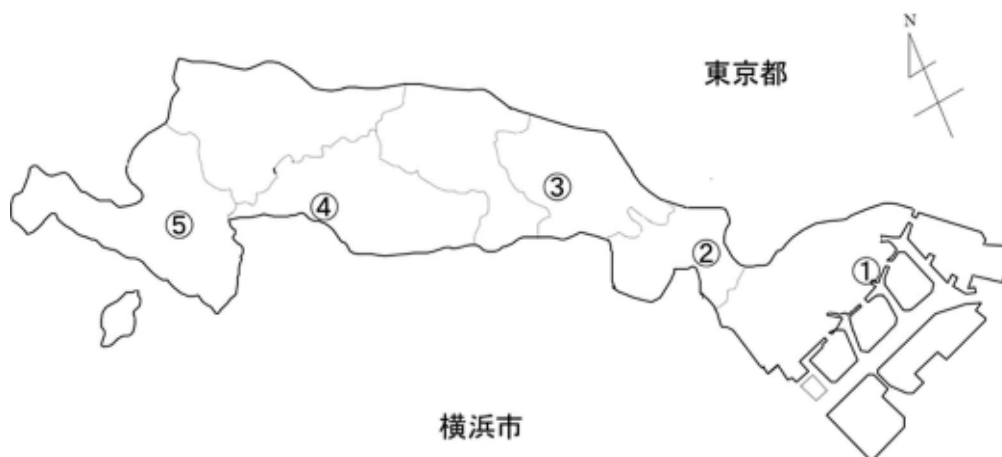
(3) 土壌

公園5地点において調査を実施した結果、全地点で土壌環境基準（1000 pg-TEQ/g以下）を達成していた。

表VI-3 ダイオキシン類調査結果（土壌）

(pg-TEQ/g)

調査地点				調査結果	試料採取日
①	川崎区	日ノ出	日ノ出公園	2.2	H27.7.31
②	幸区	戸手	戸手町公園	0.33	
③	中原区	下小田中	下小田中公園	2.4	H28.1.15
④	宮前区	菅生	菅生みどり公園	0.28	
⑤	麻生区	上麻生	真福寺公園	3.3	



図VI-6 土壌調査地点